

【令和5年度豊岡総合高等学校学校評価（学校関係者評価）】 3/6 職員会議

【学校関係者評価】

4：達成した 3：ほぼ達成した 2：あまり達成できていなかった 1：達成できていなかった

◎適切である、○ほぼ適切である、△あまり適切でない、×適切でない

部・科・学年	実践目標	評価項目	評価	本年度の取り組みについてコメント	来年度に向けて改善方法	改善方法は適切か	具体的な改善方法について
共通	働きがいのある職場づくり	教職員として働きがいのある、やりがいのある職場をめざす	2.9	昨年度の20周年記念行事をはじめとして、節目でやりがいのある事業の成果が現れ、教職員としての使命、はたらしがいのある職場をめざすことができた。	部署内での協体制制と、部署間での情報共有をさらに深めたい。学校閉庁日、定時退勤、職場環境の改善を意識した職場をめざす。	◎	
	授業のユニバーサルデザイン化	基礎基本の徹底と一人ひとりの特性をふまえた授業の実践をめざす	2.8	各授業での取組の確認から生徒一人ひとりに着眼した指導へと実施できつつある。	生徒保護者へ協力、理解を求め一連の指導が重要となるため、関係する専門部と学年との連携をさらに深める。	◎	
	情報発信	一斉メール、ホームページ、学校だより等を利用し、保護者、地域、中学校への情報発信を図る	2.9	豊総だよりは本校の特色ある教育活動が紹介され、内容がさらに充実した。一斉メールについては、学年から適切な情報を発信した。	全校生向けの一斉メールは定期的に情報発信する。ホームページ、豊総だよりは、本年度同様実施する。	◎	臨時休業時の39メール発信のタイミングに改善の余地あり
総務	業務運営の効率化、削減を図る	総務部担当業務について簡略化・効率化を図り、ワークライフバランスの確立を図る。	2.1	部内業務の分業と協働を再確認した。ワークライフバランスを保とうとする意識は高まった。	引き続き業務の分業と協働を図り実践することでノー残業Day、定時退勤の実践、実行をめざす。	○	DX化に取り組むより積極的な改善が必要
教務	新教育課程の研究、計画、決定	「新教育課程の3観点別評価の理解と実践」	2.1	3観点ABC評価と評定の組み合わせを重みによって変更した。また、Bラインについても変更を行った。	年度末の教育課程検討委員会で、審議や調整を考えている。	◎	より積極的な改善が必要
生徒指導	生徒心得の見直し	生徒・保護者・教職員の意見を参考に、世時に即した生徒心得の見直しを行う	2.0	生徒指導部案をたたき台とし、各部からの意見を集約し、来年度から運用できるように準備を進めている。	各部の意見の集約がなかなか進まないで、クラスルームを使って意見の集約をするようにしたい。	◎	より積極的な改善が必要
進路指導	各種入試制度へ対応した進学指導と社会情勢の変化に対応した就職指導	進路目標を明確にするために、種々の情報提供とアドバイスや指導を行う。前年から継続して、小論文や面接指導に取り組み、充実を図る。	2.4	しっかりとした個別指導をするため、進学就職共にすべての生徒に面談を実施した。学年との情報交換を行い協調性を持って進路指導にあたった。面接や小論文の指導も多くの時間をかけ充分にできた。	生徒の希望する進路を実現するため、外部とのつながりを持って進学・就職とも常に情報収集を行わなければならない。日々社会情勢が変化しているなかで遅れを取らないように新たな対応が毎年のように必要となっている。	◎	
保健	心身の健康教育推進を図る	教育相談・特別支援教育（通級）・カウンセリングマインド研修の充実。感染症予防への環境整備・意識高揚・計画的な物品購入。	2.2	教育相談は年間27回実施し、生徒や保護者、教職員も利用することができた。7月には職員救急救命法講習会を実施した。12月、1月に特別支援教育校内研修会を、7月にはカウンセリングマインド研修会を実施した。感染症予防については先生方や事務室の協力により物品購入等を計画的に行うことができた。	特別支援について理解啓発に努める。通級の校内体制を確立し、通級指導と授業のUD化を一体的に推進し、校内研修のさらなる充実を図る。教育相談等を通し一層生徒の気持ちに寄り添う取り組みを行う。感染症への意識を高め、予防の徹底を図る。	◎	
環境建設工学	基礎的・基本的な技術の定着	基礎的・基本的な技術を定着させ、高度な専門技術に対応できる適応力を養う	2.2	基礎的な検定の合格や資格取得のために、生徒は意欲的に学習し、各自の目標を達成する生徒が多かった。また、地元企業等の協力により、現場見学やインターンシップ等の機会を得ることで専門的な知識の習得することができた。	初めから難しいと考え、実力を発揮できない生徒もいる。基礎・基本的な学習から始めることで苦手意識を取り除き、積極的に取り組めるよう、主体性を身に付ける必要がある。	◎	難しいを払拭するのは物を見る事だと考える。より一層企業の協力を得て見学会を増やす事が近道だと思う。
電機応用工学	実践的・体験的な学習活動を通して職業人として必要な資質・能力を身につける	基礎的・基本的な知識と技術を習得し、地域および社会に貢献できる技術者を育成する	2.3	地元企業と連携し出前授業・交流会・インターンシップ・施設見学を実施して、望ましい勤労観や職業観の形成を図ることができた。また県立高校魅力アップ推進事業として医療機器用非常用電源ケーブルを寄贈し地域貢献することができた。	今年度から新たに始まった県立高校魅力アップ推進事業をさらに充実し、地域が求める貢献事業ができるように情報を収集し、身につけた技術・技能を活かせる実践力と主体性が重要となる。	◎	
総合学科推進	協働して課題解決に取り組める学習計画の立案と実践活動の支援	探究活動やグループワークの機会を設定しつつ、主体的に取り組める教材やテキスト、ワークシートを活用することにより、発展的な学びへとつながる学習支援を行う	2.3	県総合学科発表会の主幹校としての準備と並行して、従来の専門職大との連携に加えて豊岡市や商工会議所との連携をスタートし、産社や2年次総探の授業で新たな試みに反映することができた。3年次総探のあり方を新カリキュラムの理念(生徒個々が探究テーマを決める)に沿った形にしていけることが来年度以降の検討課題である。	3年次総探で、すべての生徒が各自の探究内容を発表できるようにするために、産社での学びを土台に2年次総探で探究活動の方法論を更に体系的に身に付けられる授業計画を検討する。	◎	
1 学年	基本的生活習慣の確立と、思いやりの心の育成	基本的生活習慣の確立とホームルーム活動や学校行事を通した集団帰属意識の涵養を図る	2.1	元気のよい挨拶や、時間厳守での集合呼びは概ねできている。学校祭や球技大会では級学年にあってクラスや学年で団結し、楽しもうとする姿が見られた。	制限があった中学3年間を経て高校に入学しているため、適応できず悩む生徒もいる。コロナ禍前に戻っていく世の中のスピードに対応できるよう、様々な経験ができる機会を与えていきたい。	◎	
2 学年	中堅学年としての自覚を高めるとともに、進路実現のための土台作りをおこなう	学習と合わせて、部活動や学校行事に、自主性・自律性の涵養を図りながら意欲的に取り組ませ、一人一人が生き生きとした学校生活が送れるよう適切に支援を行う	2.2	修学旅行を予定通り実施することができた。その中で集団での役割を果たし、協調性や責任感を養うことができた。中堅学年としての自覚をもち、意欲的な取り組み、進路実現に向けての意識を少しづつ養われてきた。学習習慣の定着については課題が残った。	生徒個々の進路希望に即した指導ができるよう、進路指導部と連携を密にしながら、進路実現に向けて取り組みたい。また、生徒が主体的に高校生活最後の1年を充実したものにできるよう、最上級生としての自覚を促したい。	◎	
3 学年	生徒が主体的に高校生活最後の1年を充実したものにできるよう、最上級生としての自覚を持たせる	生徒個々の希望に即した指導ができるよう、関係部署と連携しながら進路実現へ向けて支援する。卒業後を見据えた挨拶や言葉遣いなど、下級生の模範となる言動をとらせる	2.2	進路実現への取り組みでは、進路指導部との連携を密にしながら、生徒個々の希望に即した指導ができた。しかし、生徒の一部には、学習量、面接練習量等、取り組む姿勢に物足りなさを感じられた。	コロナ禍で制約された時期を過ごしていたので、直接的なコミュニケーションの不足が感じられる。各行事に主体的に参加させ、互いに認め合い、助け合い、支え合うことができるコミュニケーション能力を築く。また、全学年にBYOD端末が導入されるので、より一層のITリテラシーを高める。	◎	